

バラ栽培における天敵を活用した 総合的害虫管理体系の開発

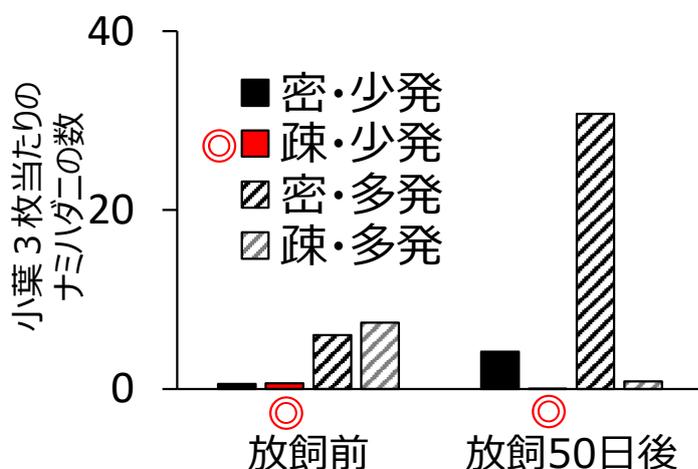
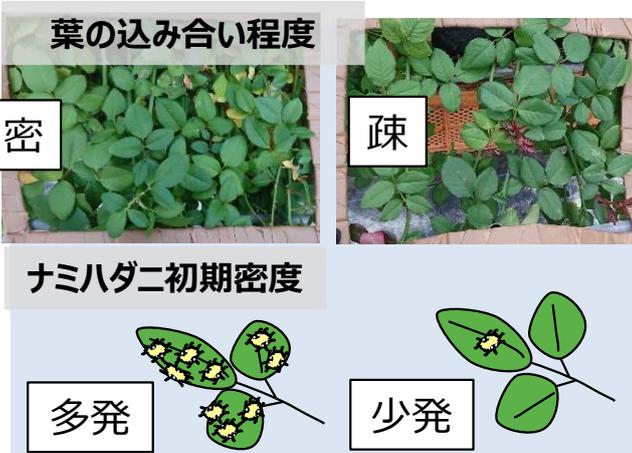
背景

バラの最重要害虫であるナミハダニは、各種殺ダニ剤が効きづらくなり、被害抑制が困難でした。

成果の内容

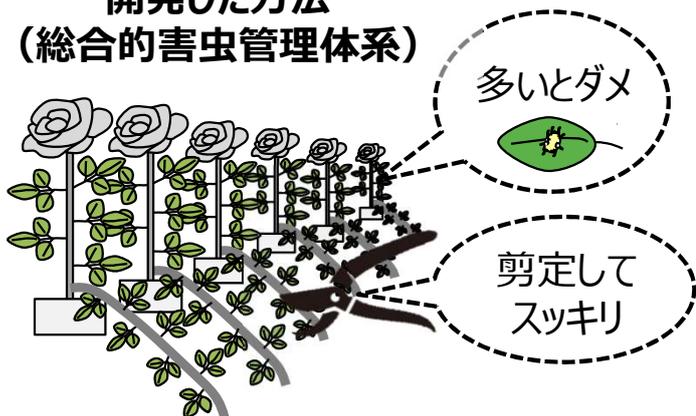
葉が込み合わず、ナミハダニが少ない時に、天敵のカブリダニ類を導入することで、長期間ナミハダニを抑制できました。

天敵（カブリダニ類）導入条件の検討



葉が込み合わず、ナミハダニが少ない条件に整え、天敵を導入するとよい

開発した方法 (総合的害虫管理体系)



ナミハダニの被害を抑えるには・・・

天敵カブリダニ類の放飼条件を整える

葉の繁茂を解消

春または秋 地面が少し見える程度に剪定

ナミハダニが少ない時
(0.5頭/3小葉) 以下

天敵の導入

(総合的害虫管理体系より一部抜粋)

【現地での活用事例】

本技術については、県内のバラ農家に普及しはじめており、農家からは、「農薬の散布回数が減るとともに、葉のツヤも良くなっている」といった声を頂いています。

【研究チームのコメント】

病害虫の被害を抑制することで、バラの安定生産に貢献でき、美しいバラを消費者の方々にお届けできれば幸いです。



(病害虫部 病害虫チーム)